

じしやう ようちん 通信

vol.42

企画・編集：(株)ASO



慈照幼稚園で一番小さいクラス

0・1歳児

つぼみ3組・4組

はいはい よちよち とことこ

子どもはあくまでもマイペース
動き回るのがとにかくうれしい。



11月に取材しました（つぼみ3組は月齢の高い1歳児、つぼみ4組は0、1歳児のクラスです）

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	
閉園		未満児・以上児合同保育	第1園舎へ移動 （未満児との合同保育）	遊び・お帰りの歌	おやつ オムツ交換		着替え お昼寝	給食準備 給食	外で遊ぶ ハンドベルの練習（1歳児） お部屋に入って遊ぶ 今月のお絵描き	朝のご挨拶 うた・手遊び	おもちゃ片づけ オムツ交換・トイレ（1歳児） おやつ	遊び おはよう、順次登園
					 検温							
												

たっぷり遊んで、もりもり食べて
眠るときはボタン、キュー

子どもの生活リズムは こうでなくちゃ！ みんなすくすく育っているよ！

慈照幼稚園で一番小さいクラス、つぼみ3組・4組におじゃましたのは、秋も深まった11月。
園生活にもすっかり慣れ、カメラを向ける私にも人見知りすることなく、かわいい表情を見せてくれました。

レポーター あきもと さちこ



園にはみんなで遊ぶ楽しさがある

何にでも興味を持ち、動き回る0,1歳児のお部屋は、広々としてのびのびと遊べる空間です。先生に衣装を着せてもらい、お母さんやお姫様の“つもり”になって遊ぶ子、絵本を読んでもらう子、積み木で遊ぶ子など、思い思いに楽しそう。おやつの後には園庭に出て遊びました。お友だちの刺激を受け、飛行機ジムに登ろうとする子がいたり、優しい先生が見ていてくれるという安心感で、初めてのことにチャレンジする気持ちが出てくるのかもしれません。

食べっぷりがお見事！

目いっぱい遊んだあとはおなかもペッコペコ。「いただきます！」で黙々と食べ始める子どもたちのお皿は、みるみる空っぽになっていきます。この日もお野菜たっぷりでしたが、目立って偏食の子はいません。「周りの子がおいしそうに食べているので、“自分も”と思うのでしょうね。なんでも食べますよ」と先生。集団生活の中で目に見えて変わっていくのは食事なのかもしれません。



この日のおやつと給食

- ✓ 10時のおやつ
おせんべい・お茶
- ✓ 給食
スパニッシュオムレツ・ツナ和え・
かぼちゃの味噌汁・オレンジ
- ✓ 3時のおやつ
メープルマフィン・牛乳



“1歳児のハンドベル”
お遊戯会で発表します。



保育 あれこれ



離乳食はその子に合わせて個別に

離乳食は、「家で食べられたものを園でも食べる」ことを基本にしています。毎月、お家で記入してもらう『離乳食カード』をもとに、一人ひとり個別に作っています。



これ読んで！ 絵本や紙芝居が好き！

0,1 歳児は、言葉をため込む時期があって、しゃべれるようになってとどんどんしゃべりだします。言葉のやりとりのある絵本や紙芝居は大好きで、フレーズを覚えては、楽しそうに繰り返していますよ。



お昼寝もしっかり見ているよ

午睡中は 5 分おきに全員の呼吸と向き、様子を確認し「午睡チェック表」に記入しています。月齢の低い子には、医療機器の呼吸モニターを装着しています。



呼吸モニター

指先を使った活動を少しずつ

1 歳児は、お絵描きやシール貼りなどの製作遊びを少しずつ取り入れています。「入れる」「はさむ」「つまむ」「積む」などの指先を使った遊びにも集中する姿が見られ、できた時はとても満足そうです。



先生の作った手づくりおもちゃ



「はじめてできた！」その瞬間に感動



1 歳児のトイレタイムは、出る出ないに関わらずみんなで行き、順番に便器に座ります。この日も便器ではじめてオシッコができた子がいて、「はじめて出たね！」「すごいね！」と先生も子どもも大喜び。園庭では、シュッシュポッポッと、友だちと並んで歩くことが初めてできるようになった子がいたり。小さな感動が毎日のようにあるといいます。

はじめての
おしっこ
できました！



オシッコ
できたよ！



ハイ！



なに、描いてるのかな？（11 月の製作・1 歳児）

編集後記

レポートのココがよかった！

- ♥「よく遊び」「よく食べ」「よく眠る」という生活リズムが新鮮だった。これって園生活ならではの良さ。
- ♥たくさんの野菜が入った給食をどの子もモリモリ食べていた。こんなに食べる姿は家ではめったに見られない。
- ♥7 人の先生のチームワークの良さに感心した。「あ・う・ん」の呼吸で、0・1 歳児の子ども一人ひとりに目を届かせている。
- ♥1 日 3 回の検温や個別の離乳食、午睡時の見守りなど、細やかさは家庭以上だなと思った。



自分のことは自分でできる
子どもに育てたい！

今日からいっしょに 「親子でお片づけ」のススメ



使ったら使いっぱなし、遊んだら遊びっぱなし。まだ小さいからしかたない？ では、いつから「自分でお片づけ」を教えたらいいのでしょうか？ お片づけを教える前の心がまえから、準備、実践のコツまで、お片づけデビューに役立つお話がいっぱいです。

お話／「ことばキャンプ」代表 高取しづか

お片づけのしつけっていつ頃から？

「自分のことは自分でする」を少しずつ



「自分のことは自分でする」。大人なら当たり前のことですよね。でも、小さな子どもについてはどうでしょう？

私が子育て時代を過ごしたアメリカでは、「自分のことは自分でしようね」ということを3歳くらいから穏やかに伝えていました。自分で使ったおもちゃを元に戻す、飲んだコップをキッチンに運ぶ、使ったタオルを洗濯機に入れる……。それらはすべて「あなたがすることよ」なのです。

もちろん子どもを突き放しているわけではなく、最初は親がお手本を見せたり手伝ったりしながら、少しずつ自分でできるようにと子どもを促していきます。感情的にならずに根気よく声をかけていました。



子育ての最終的なゴールは「子どもの自立」と考えれば、小さなころから少しずつ「自分のことは自分でする」という練習を重ねていくことは、とても大事だと私は感じています。

お片づけを教える前に…

「子どもは片づけがないのが当たり前」と知っておきましょう

お片づけに関していえば、そもそも子どもは別に片づけなくても困らない、ということもあります。好きなおもちゃは出しっぱなしにしておきたいし、雑然としているのが好き。子どもっ

てそういうものなんです。やらない子どもにイライラしないためにも、「子どもは片づけがないのが当たり前」ということを、いつも頭に置いておきましょう。

うまく習慣づけるコツは？

「親子でいっしょに、楽しく」「気長に何度でもくりがえして」



幼児期はすべてのことが遊び感覚で楽しめてしまう時期だから、お片づけもしつけというより「親子でいっしょに」「楽しみながらやる」という感じで始めてみるといいですね。

初めは、まず大人がお手本を見せて「お片づけってこういうものよ」ということを「型」としてわかりやすく教える。その次に、子どもといっしょにやってみる、というステップですめていきましょう。

取材・文／中島恵理子



高取しづか Shizuka Takatori

NPO 法人 JAM ネットワーク代表。「ことばキャンプ教室」主宰。消費者問題・子育て雑誌の記者として活躍後、1998 年渡米。アメリカで出会った友人と JAM ネットワークを立ち上げる。「子どもの自立とトレーニング」をテーマに、記事の執筆、講演、ワークショップなど、幅広く活躍中。「ダメっ！って言わない子どもへ good アドバイス (2) 身の回りのお片づけ」(合同出版)『ことば力のある子は必ず伸びる！』(青春出版)ほか、著書多数。
・ことばキャンプ HP <http://kotobacamp.com/> ・幸せになれる子に育てたいあなたへ HP <http://www.takatori-shizuka.com/>



やってみよう！「お片づけの習慣化」

★準備編

片づけやすい環境をつくろう

片づけとは、「あるべきところにものを戻すこと」。子どもが自分で戻しやすいような環境を作りましょう。ものを分類する、それぞれの定位置を決める、片づけやすい箱や棚を用意する、収納場所にイラストや写真を貼る……。子どもの目線になって工夫してみましょう。

★実践編

STEP1 まず、親がお手本を見せる

子どもの「できない」「やらない」は「やり方がわからないから」という場合も多いもの。まずは大人が「お片づけはこういうふうにするんだよ」とお手本をやって見せましょう。

STEP2 親がリードしながら、親子でいっしょに片づける

次は、「いっしょにやってみる」。「積み木はこの箱に戻そう」「ぬいぐるみのおうちはどこかな？」。親子でいっしょに片づけながら、片づけの楽しさや気持ちよさを体験させましょう。

STEP3 子どもが片づけ、親はそばで見守る

ここでの親の役目は、「手を出さずに、子どもがやりとげるまで、見守りながら待つこと」。口や手の出し過ぎは子どものやる気をそぎ、自立を妨げます。グッとガマンを。



幸せお片づけのためのミニアドバイス

♥「できたらほめる」は大事なポイント。「コップを運べたね」「クレヨンを箱にしまえたね」など子どもができたことをそのまま言葉にして伝えましょう。具体的にほめられることは、子どもの自信につながります。



♥「お片づけの曲」を決めておき、時間になったら流す。「よい、どん！」で始める……。ちょっとめんどうなことだからこそ、楽しいしかけをプラスするのも習慣化に有効です。

♥何でやらないの、ちゃんとやりなさい、など感情をぶつけるだけの言葉はむしろ逆効果。それより、「絵本が出したままだね。しまおうね」「カバンが置きゃばなしだよ。カバンかけにかけようね」と、「事実」だけをおだやかに伝え、行動を促す言葉がけが GOOD です。

♥なんとなくやる気になれないとき、大人だってありますよね。子どもだって「いつもは自分でできるけど、今日はママにやってほしい」という日もあります。そんな時は「まあ、いいか」とのんびりかまえることも大切。先を急がず、でもあきらめず、根気よく続けていきましょう。